

・ 今回のMtgは、全員が気負わなくとも、自分の意見を伝え合うことができたと思う。

自分が伝えた話に対して、異なる意見を、メンバーの2人がナチュラルに返してくれて、そこに遠慮がないことが嬉しかった。これは合宿を経たからこその変化だと思う。

例えその場で明確な結論が出なかったとしても、それぞれの気持ちをストレートに伝え合うことで、新たな気付きを得たり、前に進んでいくことができるんだなあ。3人が3人共共感合っていたら、こういう感覚にはならないだろうと思う。無自覚な遠慮がなくなることで、チームがさらに機能するのだと体感することができた。

今回議題に挙げさせてもらった「搾取について無自覚なこと」について。搾取だとまず気付くこと、そして、それを相手に伝えることの2つのステップがあるが、まずは気が付かないことには始まらない。

先日10年プロジェクトメンバーからのコメントに対して、私は自責することで決着させてしまった。陽子さんに指摘されて、搾取だと気付くことはできたけど、次に同じシチュエーションになった時どう行動すべきか、自分の中で答えがみつかっていなかった。でも、今回Mtgでみんなと話をして、「違和感を見過ごさないこと」がひとつの答えなのだと思う。

スルーせず、違和感の正体に向き合えば、もっと異なるアプローチができたはずだと思う。

そして、陽子さんからは、今回えみちゃんは搾取されたという自覚がなかったけど、えみちゃんだけ搾取とっていて、

他の2人が気付いてくれなかったら傷つくよねという、異なる視点でのフィードバックをもらった。自分だけのことなら「気付かなかった」で片付けられるけど、そういう限定的な話ではなく、違和感を見過ごさないことは、仲間やコミュニティの治安を守ることに繋がるのだと気づきをもらった。

今後の10年プロジェクトの関わりについて、私は自分の練習だと思っているという話をした。残念ながら、今の10年プロジェクトは、同じ話を同じ温度感で受け取れない現状にあると思う。それでも、陽子さんが長年伝え続けてくれた指針がコミュニティのルールとしてあるので、10年プロジェクトの外の世界に比べたら、みんな成長を望んでいる、人生を良くしたいと思っているはずだという前提がある。

チームItoのメンバーに指摘してもらった通り、「押し付け」は双方の自己開示と、お互い求めているという関係性があって、初めて成り立つものだと思う。

チームItoでの押し付けと、10年プロジェクトでの関わりの練習を両輪でやっていけたらいいなと思った。

陽子さんからは、フォローする時に何が足りてなくて、何を補うのかを考えてやるのが大事だというフィードバックをもらった。闇雲にやればいいのかではなく、考えてやらなければ成長にはならない。過不足のない適切な関りをするためには、相手を知ること、関わり方を考えることが大事なのだ、メッセージをもらった。これは10年プロジェクトだけでなく、人間関係全般に言えることだと思う。

そして、Mtg当日の日中に陽子さんから第2回合宿の投稿があり、Mtgの最後には日程と場所のあたりまでさくっと決まった。この辺りのスピード感は、チームの足並みが揃っている

からこそだと思う。合宿が終わって燃え尽き症候群になるどころか、3Qから承認式に代わる基準はさらにステップアップしたものとなり、早々に第2回の合宿の開催が決まって、1回目以上のものを作るためにさらなる進化が必要だと気合が入った。

(E.M 40代女性 埼玉県)